

■効果の見える治水事業 土砂災害から命を守るソフト対策への取り組み



徳島県 県土整備部 砂防防災課長 大和 章人

今年も土砂災害警戒情報が県下に複数回発表されるなど、近年、記録的豪雨が毎年のように観測され、土砂災害の危険性が非常に高まっております。

本県は、山地が県土の約80%を占め、急峻で平坦地が少なく、土砂災害危険箇所が約1万3,000箇所(全国第19位)あります。

平成18年から土砂災害警戒区域の指定を進めており、平成27年9月末時点で、3,317箇所、その内、土砂災害特別警戒区域が3,054箇所となっております。

昨年8月に広島市で発生した土砂災害を受け、基礎調査を加速的に進める必要があるとし、国が示す5年間目標を3年前倒しの平成28年度の完了を目指し、日々取り組んでおります。

本県におけるソフト対策充実への取り組みとして、今年1月の改正土砂法を受け、県のホームページに「土砂災害警戒区域等マップ～土砂災害から命を守るために～」を開設しました。これは土砂災害警戒区域等の危険箇所をグーグルマップ等の地図と警戒区域図を重ね合わせることで、簡単な操作で、視覚的にもわかりやすく、住民の皆様が自宅周辺が土砂災害の危険箇所なのかを確認いただくことで、土砂災害に対する意識の向上を図るよう努めております。

また従前からの取り組みとしては、21世紀型の予算スタイルとして、予算措置を伴わない「ゼロ予算事業」などからなる「とくしま」トクトク」事業」を展開し、防災出前講座やパネル展を実施するなど防災意識の向上を図るとともに、土砂災害防止月間の際には、土砂災害防止に関する絵画・作文の優秀作品を各所で展示し、啓発活動に努めております。

今後とも、土砂災害から「助かる命を助ける」という減災の視点で、より一層の啓発活動に努めるとともに、ハード対策にも積極的に取り組み、ハード・ソフト一体となった土砂災害対策を推進し、「安全安心・強靱とくしま」の実現に取り組んでまいります。



土砂災害警戒区域等マップ
～土砂災害から命を守るために～

URL: <http://maps.pref.tokushima.jp/landslide/>



防災出前講座



防災パネル展

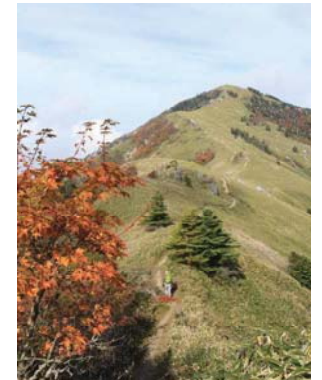
「将来にわたって住み続けたい町」の実現に向かって



徳島県つるぎ町長 兼西 しげる

○概要

つるぎ町は、徳島県の西部、吉野川のほぼ中流域南岸に位置し、林野が全面積194.8平方キロメートルのおよそ8割を占めています。特に、町南部においては、町名の由来となっている四国第2の霊峰剣山をはじめとした山々が連なり、厳しい生活環境の一因となっています。温暖多雨で生活のしやすい気候ですが、昭和50年と51年に襲来した台風では災害救助法の適用を受けるような災害を経験しました。また、平成26年12月には、南国四国の地でありながら、季節外れの湿った大雪の影響により山間部で倒木が相次ぎ、自衛隊の派遣を要請し対応にあたりました。地形的な特徴から、町の歴史は災害との闘いの歴史であると言っても過言ではありません。幸いにも、津波の心配はない地域ですが、台風による水害や土砂災害、地震にともなう山腹崩壊による集落の孤立化対策が喫緊の課題となっております。



△剣山・標高1955m

町では、“自助・共助・公助”の精神から自主防災組織の育成に重点を置いています。また、防災教育にも力を注いでいます。毎年6月の土砂災害防止月間には、山間部の地域持ち回りで防災訓練を実施しています。中学校の少年少女消防クラブでは、地域の方々とともに活動を展開しています。

今後も、行政としての災害対応機能を強化するとともに、町のキャッチフレーズである「将来にわたって住み続けたい町～生きがいのある暮らしと活力ある地域づくり～」の実践に努めてまいります。



△孤立化を想定した里道避難訓練



△少年少女消防クラブの訓練